

テストの積極的な意味を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. こんにちは、開倫塾の塾長の林明夫です。
今日も開倫塾の時間を聞いて頂いて有り難うございます。
2. 今日は中間試験が、各中学校、高等学校で行われる季節になりましたので、何のためにテストを受けるのかという話をさせていただきます。私はテストは、積極的に受けた方がいいと思います。学生という職業に従事する人にとって、テストはさけられない訳です。教える方が教わる方をテスト、つまり評価する意味は沢山あると思うのですが、学ぶ側、つまり学生がどんなふうにテストを受けるべきかということを今回私は考えてみたいと思います。
私の考えは非常に極端といいますか、変わっている考えかもしれませんが、是非お聞き下さい。
3. 私の考えは、テストのための勉強というのは不確かな物を確かな物にするために行うのだということです。これが結論です。
4. 物事を取り組むときに、嫌々ながら、被害者になった気分で消極的に取り組むのと、その物事を取り組むときに積極的な意味を見い出して、自分のため、みんなのためにやるのとでは、行っているほどの違いがあると思います。ましてや、一つの科目とか一つの分野を勉強するというように、目に見えない頭の中、精神的な作業をする場合には、心の持ちよう、心の有り様が積極的か消極的かで、その結果が大きく変わる。その結果に大きな影響を及ぼすのではないかと思います。そこで、たとえば一つの科目とか、分野を勉強する、習得する、マスターする場合も、必ず行われる、何回のテストを受ける場合も、教わり手、つまり学生が、そこで学ぶ生徒は、できればテストに積極的な意義を見いだして頂いて、自分のために一生懸命取り組んだ方が、嫌々被害者意識でテストを受けるよりは、何十倍、何百倍も学習効果が期待できると思います。テストを受ける際には、私は今から述べる積極的な姿勢で臨むべきではないかと思います。
5. どういうことかといいますと、このテストを通じて私は今までテスト範囲について、今まで不確かであった知識を確かにして、100 %身につける。そのために私はこのテストを積極的な姿勢で受けるんだと考えた方がいいと思います。先生に教わっているときは、初めてですから、あまりよく分からない訳です。不確かであるところもある程度はあるかもしれません。仕方がない話ではありますがけれども、ただ、一区切りついたところまで終わったあとは、だいたいここではどんなことを教わるかも分かりますし、その内容についても易しい問題でしたら、解けるくらいにはなっていると思うのです。「理解」がある程度できて、「定着」の作業までできていると思うのです。あとは自分の力で不確かであった知識とか、理解をゆっくりでもいいですから、自分の物にする作業をするだけだと思うのです。

6. 都合のいいことに、学校の先生は、生徒さんをいじめるために苦しめるためにテストを作っているのではなくて、ちょうどいいところを見計らって、小さなテストをやるとか、大きめのテストを定期的実施して下さっています。そういう風に思った方がいいです。定められたテストの期日、テストがある日は決まっているわけですから、授業で使ったテキストとか、先生の言葉を書き写したノートを使って、十分不確かであったところを確かな知識にする作業をした方がいいと思うのです。どういうふうにやるかといいますと、繰り返し教科書やノートを読み直して、覚えるところは覚えることも大事だと思います。又、よくわからないところはまずは自分でじっくり調べる。そのために、どこの学校にも図書館があって、図書館司書の先生がいるわけですね。それでもよく分からなかったら、教えて下さった先生を直接職員室に訪ねて、「先生ここのところちょっと分からなかったのですけれど、もう一度教えて下さい。」ということで、もう一度教わってもいいわけです。学生というのは一つの職業ですから、テストを受けることは義務な訳です。ですから、テストのために教科書やノートを覚えて、わからないことはまずは自分の力で、図書館で調べて、それでも分からなかったら先生を直接訪ねていくということは、学生という職業を持っている人の常識です。よく考えれば、何のためらいがあってもいけないと思うのです。ですから、本当に生徒さんにとって、良い時期によりテストが準備されているなど感心するほど、中間試験とか、期末試験、豆テストはよい仕組みだと思います。

7. テストも文化の一つかもしれません。高校入試というのは、考え方によっては、中学時代に行った勉強の総復習で、不確かであった知識とか理解を 100 %身につけるために受けるんだと思えばいいわけです。事実日本国民の基礎学力が世界の各国に比べて非常に高いですが、これはほとんど 100 %近い中学生が 15 歳の一時期、半年近く真剣に文字を書き、計算したり、基礎的なことをいろいろ受験に備え勉強してきた結果かもしれません。どういう形で勉強するか、いろいろな形があるわけですが、ほとんどの方が高校入試を受けるその結果、たとえば簡単な計算ができるようになったり、簡単な文字も書けるようになったり、地理もどこになにがあるとか分かってきたり、英語も少しは書いたり、読んだりする能力が高まってきた。それも一つは高校入試という仕組みがあって、国民の大半の方が受けているからかもしれません。だから、ある程度積極的な意味を高校入試とかに持つて頂くのも一つの考えかもしれません。

8. そんなことで、テストをバネに学力をつける、積極的にテストを受けて頂ければ、勉強する本人は腹も立ちませんし、本人のためにもなる。国力も非常に高まる。そういうことが最近思われます。アメリカはクリントン大統領の時からスタートし、ブッシュ政権も一所懸命国民の基礎学力をつけることに尽力しています。イギリスも同様です。せっかくここまで来た日本ですから、日本国民もよい意味でテストを活用して基礎学力をつけて頂ければと思います。

9. 毎回お話しして恐縮ですが、車を運転している方はくれぐれも前の車に追突しないように、車間距離を十分お離し下さい。前の車が急停止しても、すぐ止まれる位車間距離を皆さんがとって頂ければ、前の車が事故を起こした場合、皆さんの車が追突して、皆さんの後ろの車が追突をすることも避けられます。是非、追突事故防止のため、車間距離を十分お取り下さるようお願い申し上げます。